

東海道統一案内看板の取り組み 報告書



大津祭の曳山巡行に似合う品格ある東海道の町並み（大津市京町通り）

東海道統一案内看板専門部会

平成30年11月

目次

はじめに

1. 平成28年度の取り組み

- (1) 現地調査により得られた東海道の現状と問題点
- (2) 東海道統一案内看板ロゴマーク

2. 東海道統一案内看板専門部会

- (1) 専門部会の設置
- (2) 看板づくりのコンセプト
- (3) モデル看板の製作
- (4) 地域の資源を掘りおこすまちあるき

3. 東海道統一案内看板の考え方

- (1) 東海道統一案内看板の方向性
- (2) 推奨デザイン看板のルール
- (3) 専門部会で検討した取り組みの広め方

4. 今後の取り組みについて

- (1) 「東海道統一案内看板設置の手引き」の活用による啓発実施
- (2) アドバイザー制度

資料編

はじめに

大津市と草津市は、東海道でつながる宿場町として、また「急がば回れ」のことわざで有名な琵琶湖の湖上交通に代表される歴史や文化のつながりを生かしたまちづくりを行政間の垣根を越え進めるため、平成22年より連携を始めており、平成25年にはその理念を両市の景観宣言に込め、「びわこ大津草津景観推進協議会」として活動している。

協議会は3つの具体的な施策として、「対岸景観の保全」「東海道沿道の連続性ある景観形成」「屋外広告物の統一した規制誘導」を掲げている。

特に東海道は、五街道の一つとして多くの人々が歩き、その往来により場所ごとの固有の暮らしや文化が育まれ、様々な技術が運ばれた経緯があり、豊かな景観づくりの資源が残ることから、現在でも多くの人を魅了し、街道沿いでは、多くの団体により保存活用が積極的に進められている。

その思いがつながる道しるべの意味も込めて、両市で「東海道統一案内看板」を作成することを立案した。また東海道の往来で育まれた人々の営みが、次世代にもつながっていくことを目指し、また未だ多くの方を魅了してやまない歌川広重の浮世絵を参考に、成安造形大学や滋賀県建築士会、滋賀県広告美術協同組合の協力のもと「東海道統一案内看板ロゴマーク」のデザインを作成し、平成29年5月に両市は商標登録に向けた記者発表を行っている。

ロゴマークお披露目の際に、両市長から【歴史を感じる統一デザイン看板によって、つながりのある景観づくりのため他市にも呼びかけ、市民と一緒に東海道のまちなみを作り上げていきたい】との思いを示され、この思いをどのように具現化していくか、また【多くの方に関わってもらうことにより看板設置をいただく】という2つの課題について、歴史文化の学識者、商工観光関係者・建築看板関係者、地域の市民団体、そして行政で構成する「東海道統一案内看板専門部会」を立ち上げ検討をおこなった。

1. 平成28年度の取り組み

両市は、平成28年度に成安造形大学の先生・学生に東海道統一案内看板のデザインなどを依頼し「**取り組みの意識や気持ちを共有し、さまざまな考えや人の立場を理解したアイデアを提案したい**」という成安造形大学の考えから、現地調査は両市の担当職員も一緒に歩いて身を以て体験し、歴史文化の有識者や市民代表者を交えたプレゼンテーションを行い提案された。

(1) 現地調査により得られた東海道の現状と問題点

○既存看板の現状と問題点

現在東海道には、経路案内、史跡案内のための看板が多く設置されているが、それぞれの看板の**デザインや形状は統一感がなく、目的や設置箇所も不規則で、あくまでも文字情報を頼りに、看板を探しながら歩く必要がある**。また、看板の材質や日当たりなどの影響で著しく劣化したものがメンテナンスされないまま使われていたり、ごみ収集場所として使われていたりするなど、**景観や通りの魅力を損なっている看板がある**。

○沿道の現状と問題点

東海道沿道には、随所に神社仏閣や趣のある店舗、家屋といった名所があり、各所の説明文や周辺の俯瞰地図なども多く設置されている。しかし、東海道は曲がり角が多く、道幅の狭い箇所や交通量が多い箇所もあるため、道に迷うことや交通面で危険なことがあり、安心して東海道を歩くことが難しい現状がある。また、「東海道」と「旧東海道」という名称が混在していることや、休憩したりトイレを利用したりできる箇所が極端に少ないことなど、東海道を訪れる人への配慮が欠けていることが課題として挙げられていた。



こうした課題を解決すると同時に、東海道沿道の方が守ってこられた、街道の面影を残す建物や歴史的なまちなみ景観を、地域の方が誇りに思い、次世代へ引き継ぐための取り組みが求められているのではないかと提起されている。

(2) 東海道統一案内看板ロゴマーク

成安造形大学の提案の中で、東海道統一案内看板で使用する「東海道統一案内看板ロゴマーク」のデザインが決定。

平成29年度には、両市でロゴマークの商標登録を行い、両市統一デザインの看板(東海道の歴史や町の魅力を発信する案内看板)を充実させることにより、統一性・連続性のある沿道景観の形成を目指すことを確認された。

○東海道統一案内看板ロゴマーク



○デザインのコンセプト

江戸時代の五街道の1つとして、街道本来の意味合いとしての東海道を、広重の描いた文字を参考に表現。

そして古代の五畿七道として、『古事記』や『日本書紀』では「うみつみち」として詠まれる古来より美しかったであろう海沿いの国々を通る道を、波と、通じる長い一本道で表現されている。

2. 東海道統一案内看板専門部会

(1) 専門部会の設置

両市は、看板の設置を広めていくため、さまざまな考え方や人の立場を理解しながら、またあらゆる見地から意見をいただきながら、看板のデザインや取り組みの周知啓発方法などについて専門部会で検討をおこなった。

専門部会には、両市の歴史・文化や建築・看板の有識者、商工・観光に関する方、地域の市民団体の方に参画いただいて検討を進めた。

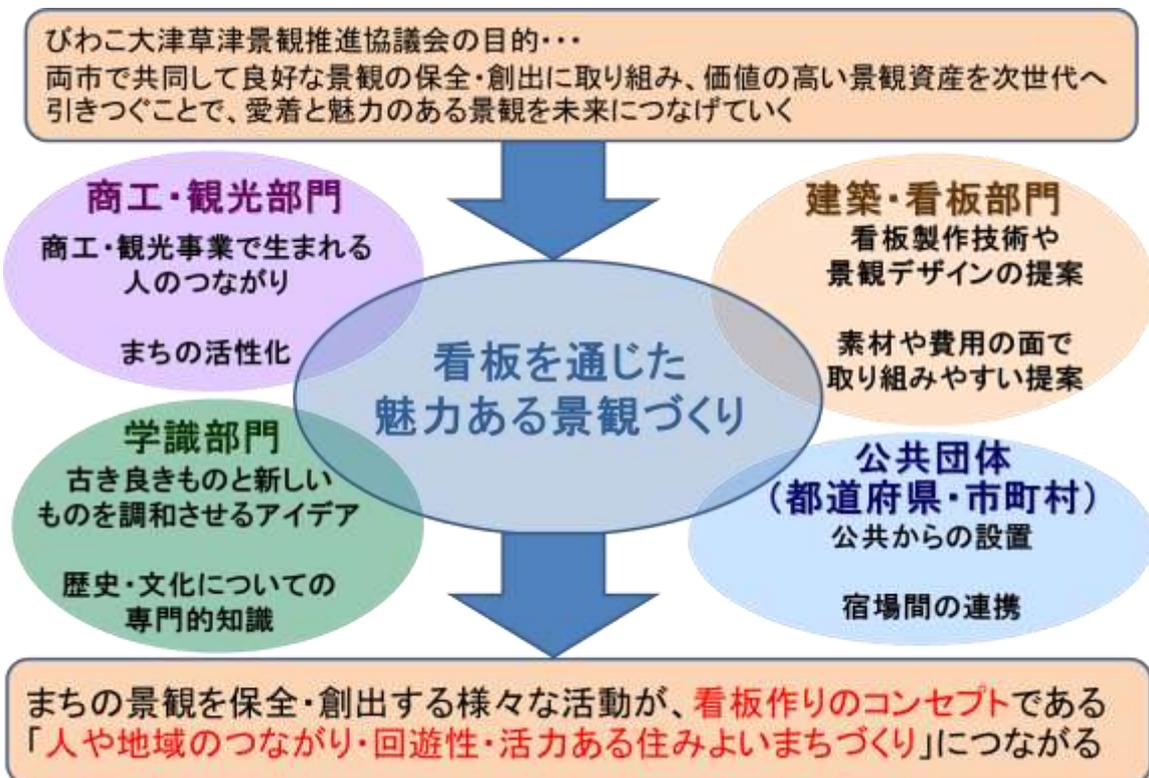
○専門部会の構成

- ・成安造形大学
- ・(公社)滋賀県建築士会 大津地区委員会・湖南地区委員会
- ・滋賀県広告美術協同組合
- ・大津市歴史博物館
- ・大津市商工会議所 青年部
- ・大津市商店街連盟
- ・(公社)びわ湖大津観光協会
- ・(公社)日本建築家協会 滋賀地域会
- ・旧東海道まちなみ整備検討委員会
- ・草津宿街道交流館
- ・草津商工会議所
- ・草津市観光物産協会
- ・大津市まちづくり計画課
- ・草津市都市計画課

(2)看板作りのコンセプト

専門部会は、次のコンセプトに基づき課題を検討した。

- ・いろいろな人に関わっていただくことにより、人のつながりや町内・市内・県内のつながり、そして宿場町・城下町など地域同士のつながりをもたらす
- ・固有の歴史や風土、文化、伝統、人々の暮らし、技術、制度を見える形すなわち「景観」として、まちづくりの資源としていく
- ・多くの方が回遊し、文化や歴史に触れていただくことで、健康や地域の安全、経済の発展につながり、活力のある住みよいまちが生まれる



(3)モデル看板の製作

看板設置を進める上で、課題や費用、設置方法などあらゆる面から検討するため、成安造形大学の先生・学生の方がデザイン提案されたモデル看板を、滋賀県建築士会の大津地区委員会・湖南地区委員会の方に寄贈いただく形で、大津市・草津市の東海道沿道に1つずつ設置された。

○モデル看板の製作

大津市の看板は、東海道が栄えた江戸時代の看板製作に可能な限り近づけ、手彫りの方法とされた。当初から看板には木製の素材を使うことを想定したが、一枚板は高価なうえ雨に濡れると反りやすい特徴があり、そこで、旧東海道まちなみ整備検討委員会や日本建築家協会をはじめとする地域の方より、古い建物を改修したときに出る「着物板」の活用を提供いただいた。町家に残っていた材料であるため、費用を抑えることができるだけでなく、地域の素材を用いることで愛着をもってもらえることができ、まちなみとも調和することを想定している。また、文字の入れ方や塗料、設置方法については建築士会の方にアイデアをいただき、デザインの検討には、成安造形大学のほか、行先表示について歴史文化の専門家にアドバイスをいただき実施された。

【大津市モデル看板】着物を干すために使われていた着物板を活用



【草津市モデル看板】自然素材のべんがらで着色



○製作上の課題

- ・手彫りの場合、「東海道」の筆書きの書体は、まっすぐな部分が少ないため彫りにくく、看板のサイズが大きいくらいほど彫る部分が多く手間がかかる
- ・小さい文字も彫りにくく色を塗るとつぶれてしまう可能性があるが、文字を大きくすると全体のバランスが崩れてしまう
- ・手彫りは技術と時間を要するため、製作コストと看板の普及に適した単価のバランスが難しい
- ・風雨の被害や防腐のため表面に施すコーティングなど、設置後のメンテナンスをどのように行うのか、考えて看板を作らなければならない
- ・まちなみの連続した建物の色合いと設置する看板の色は、何らかの統一感を持たせる方が良い。

このモデル看板の製作により、普及させていくための製作方法や看板デザインについての検討の必要があること、設置後の管理や周囲の景観との調和にも考慮しなければならないことを踏まえてルールを検討を行った。

【大津市モデル看板(京町一丁目付近)】



【草津市モデル看板(草津三丁目付近)】



○看板を設置された場所にある事業者の声

看板設置の約半年後、設置いただいた方にインタビューを実施しました。

良かった点	改善すべき点
<ul style="list-style-type: none">・デザインが優れている・東海道について関心を持ってもらうきっかけとなり、事業所の特徴としても捉えてもらえる・東海道を好きな方をはじめ、事業所に来られるいろいろな方から声をかけてもらえる <p>* 費用負担をしてでも設置を検討してもよいとの意見をいただいた。</p>	<ul style="list-style-type: none">・一つ設置するだけではインパクトが弱いと感じられる・隣接する建物に看板が隠れてしまう・看板の取り組みについてまだ地域に普及しておらず、東海道沿いの有名な観光地などに比べると、強い誇りをもっている人が少ないように感じる

このような声を受けて、専門部会では今後の活動について、地元の方や来客者が来られる場所の事業者に設置を依頼するなど可能な限り看板を増やしていくこと、地域固有の歴史や文化を表現した看板によって景観まちづくりを進め、地域の方に東海道を誇りに思う心、地域への愛着を持っていただくような啓発を行うことを課題とした。

(4) 地域の資源を掘りおこすまちあるき

専門部会の委員が地域の魅力や問題点を知り、取り組みを自分事として捉えるため、地域に詳しい方、地域のことを好きな方にファシリテーターとなっていただき、地域の方が作られたマップや旧町名の地図を見ながら歩くまちあるきを行った。

○まちあるきの様子

【地域のマップを使い、ファシリテーターが説明】



【石碑(奥村歯科)】



【曲がり角にある響忍寺】



【城下の防塁により狭くなった東海道】



【ばったん床几のある町家の並び】 【カーブミラーより上の電柱看板】 【間違われやすい交差点】

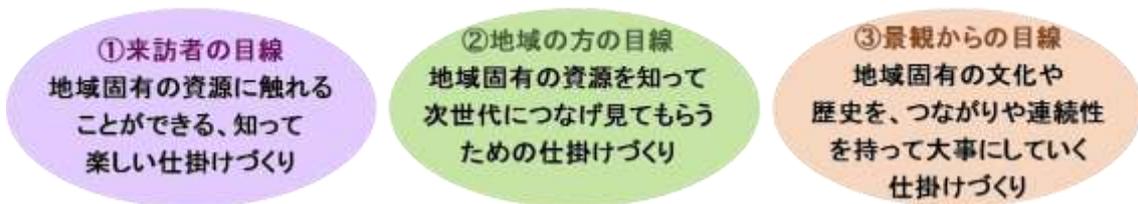


○まちあるきにより得られた主な意見

- ・曲がり角の多い東海道では、来訪する人への案内表示が必要
- ・既存の看板は目線より高い位置にあり、歩く人の目線だと看板は高さ2m程度のものがよい
- ・お寺や神社、古くからある町家が地域の人にとってなじみ深く、また建物の設えに趣のある看板が調和する
- ・地域や街道にはそれぞれ特色があり、それに合わせたデザインにするべき

このような意見から、専門部会では、統一案内看板による東海道の景観まちづくりを進めていくうえで、次の3つの視点が大切であることを確認した。

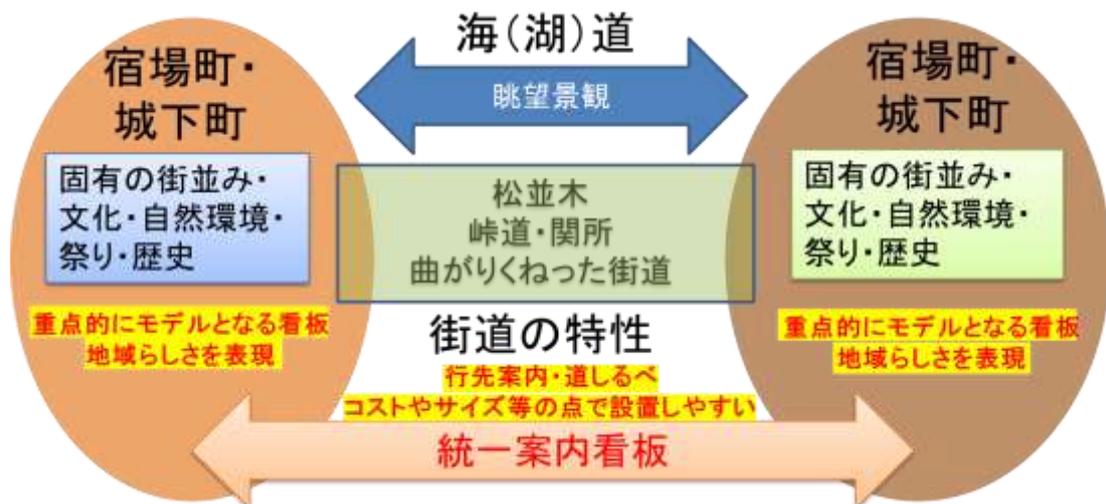
まちあるきを行い認識した統一案内看板づくりに大事な3要素



○看板が設置する箇所の地域性の考慮

また、まちあるきを通じて、看板は設置する場所の景観と調和し、その場所に住む方の愛着のもと活用されるために、来訪者に伝えたい地域の魅力、誇れる部分をデザインに取り入れていく重要性も認識した。

そこで専門部会では、宿場町や城下町など東海道沿いの要衝に設置する看板はモデル看板のデザインをベースに地域の特色を取り入れ、それらをつなぐ街道沿いには、道標としての役割を重視し、より普及しやすい看板を広めていくことを確認した。



3. 東海道統一案内看板の考え方

(1) 東海道統一案内看板の方向性 : 【統一】とは

本取り組みでは、統一したデザインの案内看板を設けることで、沿道の方が東海道に住む誇りを持ち、また来訪者に見てもらうため魅力ある景観づくりに自発的に取り組んでいただくことで、建物を含めた美しいまちなみの創出につながると考えている。

この考え方から、地域デザインを取り入れながらも、道標である連続性・統一性のある看板とするため、本取り組みでは、国々を通る道を、波と、通じる長い一本道で表現した「東海道統一案内看板ロゴマーク」を掲載することで、東海道統一案内看板とすることとした。

また、東海道は地域によって「東海道」「旧東海道」と異なる名称で呼ばれているが、専門部会では取り組みの当初から議論した結果、「東海道」と呼ぶこととした。

東海道統一案内看板による景観まちづくりを考える地域や団体の方に、コンセプトを中心に、来訪者・地域の方・景観からの目線を大切にしながら取り組んでもらえるよう、専門部会ではグループに分かれて看板のルールと取り組みの広め方を検討した。

【看板のルール検討グループ】



【PR方法検討グループ】

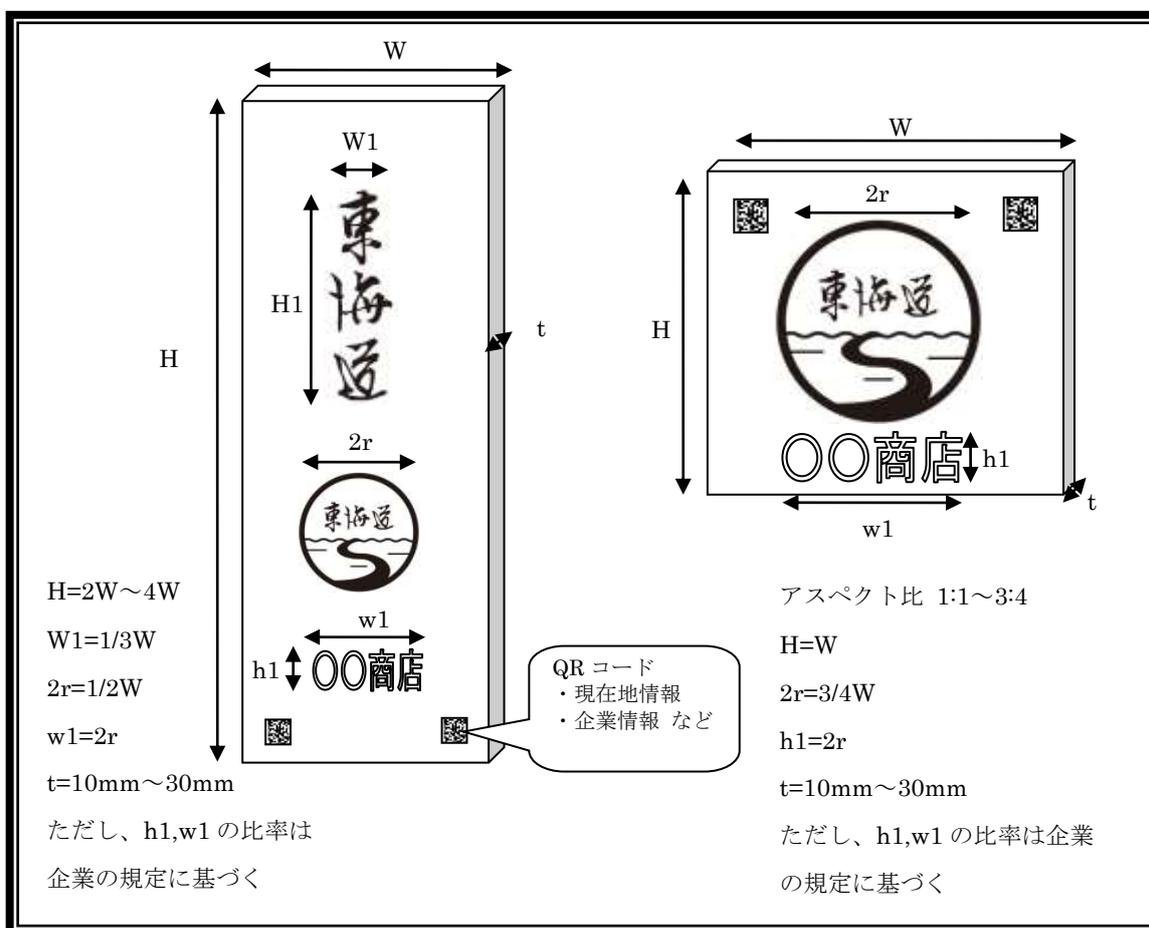


(2) 推奨デザイン看板のルール

- ・前述の東海道統一案内看板の目的およびコンセプトを逸脱しない看板とする。
- ・東海道統一案内看板ロゴマークは必ず記載する。
- ・「東海道」フォントは可能な限り記載をお願いするが、フォント単体での使用はできない。
- ・掲載できる情報は限られるため、看板を設置する事業所の情報や、周辺の観光情報などはQRコードで読み取れるようにするなどの工夫をお願いする。
- ・QRコードを企業HPへリンクさせることも可能。
- ・看板のベースカラーは素材の色とし、フォントとロゴの色は統一の無彩色※とする。
また、コーポレートカラーは単色に限り使用できる。
- ・素材は原則木、石、瓦などの自然素材とする。ただし、趣のあるものであれば、亚克力などを使用することができる。
- ・野立、壁面、突出など看板の形態は限定しないが、しっかりと固定する。立て看板など簡易なものであっても、固定、メンテナンスを考慮し設置する。
- ・看板の意匠・形態については、各地域の景観条例(屋外広告物条例)を逸脱しないよう考慮すること。

※無彩色とは、黒、白及びその中間色(様々な濃度の灰色)のこと。

レイアウト例



(3) 専門部会で検討した取り組みの広め方

専門部会では、東海道統一案内看板設置の取り組みを広めていくための方法を検討した。

- ・東海道沿いで看板を設置いただける方を探し、基盤となる看板を増やす。
- ・看板を設置する際の相談窓口やおおまかな予算、ルールについて記載した手引きを用いて、取り組みの趣旨を説明する。
- ・ロゴマークの周知することも必要であり、グレーチング蓋等の溝蓋を設置し周知と道標の役割を持たせることも有効である。
- ・看板づくりワークショップを開催する。
- ・具体的なアクションを起こしていく中で、クラウドファンディング等による賛同を得ていくことも考えられる。
- ・商店街等で東海道の魅力を発信するワークショップを実施しているが、この取り組みも看板設置につながるので進めたほうが良い。

① 看板を設置してくれる人を探す



② 具体的なアクション

ワークショップ開催例



建築士会の方にファシリテーターとなっていて、素材や着色方法についてレクチャー

4. 今後の取り組みについて

(1)「東海道統一案内看板設置の手引き」の活用による啓発実施

東海道統一案内看板の取り組みに賛同いただける方に、看板を設置いただけるよう大津市・草津市を相談窓口として、専門部会で検討した統一案内看板の考えを踏まえた支援を行う。

そのツールとして、看板づくりのコンセプト、設置までの流れや看板のデザイン・設置についての最低限のルール等について示した手引きを作成した。

今後はこの手引きを活用し、まちづくりを進める団体などに積極的にお知らせして、看板設置を推進してほしい。

(2)アドバイザー制度

手引きにない看板の意匠・形態、また具体的な看板作成方法などについての相談に対し、専門部会で検討したロゴマークのブランド化の取り組みを踏まえた助言を行うアドバイザーを設置したほうが良い。

最後に・・・

今後協議会で策定する両市共同の景観基本計画および各市の景観計画において、この取り組みを踏まえた内容を反映していくことにより、将来にわたり良好な景観形成につなげていくことが大切である。

